

親子と地域をつなぐブックスタート 多くのボランティアが支え、 支援の輪が広がっています

ブックスタートとは、すべての赤ちゃんのまわりで言葉を介した楽しく温かいひとときが持たれることを願い、絵本を開く楽しい体験と一緒に絵本を手渡す活動です。



母子保健推進員
田中 京子さん (深江)
たなか・きょうこ

子育てに関する不安を取り除けるよう、健康で明るい家庭づくりのお手伝いをしています

4カ月児健診は、生まれて初めて行われる集団健診です。お母さんも不安を抱えているので、相談しやすいような雰囲気を作るように努めています。毎月行われているので、母子保健推進員の仕事の中でも、ウェイトが大きいのが4カ月児健診での読み聞かせです。赤ちゃんにとっても、お母さんに

とつても、とても大事な場面なので、ゆっくりと時間を掛けて行っています。健診の読み聞かせに参加することで、赤ちゃんの成長を間近で実感することができます。何より、子どもが成長する場面に立ち会うことができるのは、この上ない喜びですね。

子どもは地域の宝物。
地域全体で見守っていききたいですね

民生委員・児童委員
吉川 忍さん (物見東)
きっかわ・しのぶ



本当に必要なのは、絵本を上手に読むことではなく、赤ちゃんとの触れ合う時間を共有することなんです。絵本を読むことは片手間にできることではなく、その時間はすべてを優先しないとできません。そのため、たとえ言葉や絵が理解できない赤ちゃんでも、自分が愛されていることを感じ取ります。

だから、わたしたちにできるのは、そのきっかけづくりなんです。子どもは地域の宝もの。自分の担当の区であれば、民生委員として今後ずっとその子の成長を見守るきっかけになります。そのスタートの場面に携われることに、喜びと誇りを感じています。



4カ月児健診時、ブックスタートボランティアに抱っこされて、初めて絵本に出会う赤ちゃん。いろいろなものを感じ取って成長していく大事な時期。言葉が理解できない赤ちゃんでも、音の響きやリズム、色や形などに興味を持つ。写真は2月6日、大野福祉保健センターで行われた絵本読み聞かせで初めて絵本と出合った前田吏音(まえだ・りおん)くん。お母さんの恵里(えり)さん(左から2人目)は「目でしっかり追っていました。家に帰っても読んであげたいと思いました」と話してくれた。

特集 地域で育てる

子育てを支えるブックスタート
—2～5ページ—

問合せ はつかいち市民図書館 ☎0333
廿日市市保健センター ☎1610

人や地域の温かさを自然な形で伝えたい。市では、4カ月児健診のときに、絵本と子育ての情報が入ったブックスタートパックをすべての赤ちゃんとその保護者に手渡しています。

計測や診療を待つ親子に、スタッフが声を掛けていきます。「赤ちゃんを抱っこさせてもらえますか。」

お母さんは、赤ちゃんの表情を見てくださいますか。

ボランティアの一人が膝に赤ちゃんを抱っこして、もう一人は絵本を読み始めます。

それは保護者に『赤ちゃんに話しかけてあげてくださいね』とだけ伝えても、具体的にどんな風にしたらいいのか、ピンとこないこともあるからです。

ページをめくるたびに「ぷくぷくぷくくん」「どどーん」「ぶーぶー」「ぼーぼー」、動きのある音が続ぎ、赤ちゃんのかわいらしい表情に、保護者の驚きと喜びの音が響きます。

■ブックスタート

ブックスタートは、健康推進課、図書館、子育て支援センター、民生委員、母子保健推進員やボランティアの方などが、それぞれの専門性を生かしながら実施しています。ブックスタートを通じて、赤ちゃんの幸せを願う地域の人たちと出会い、親しくなることで、子育てのよりよい環境が生まれることを願っています。

廿日市市のブックスタート事業では、4カ月児健診時に地域の子育ての情報が入ったブックスタートパックを大好きな人と絵本を開く「きっかけ」とともにボランティアが手渡しています。

■なぜ、「赤ちゃん」なの？

まだ字を読むことや、ことばの意味をすべて理解することはできない赤ちゃんも、絵をじっくりと見つめたり、指差したり、読んでくれる人を見つめてその声に耳を澄ませたりと、赤ちゃんそれぞれの絵本の楽しみ方があります。

「絵本を読む(Read books)」ではなく、大好きな人と一

緒に、その楽しいひとときを「分かちあう(Share books)」…。そんなひとときを、ブックスタートを通してできるだけ早く届けたいからです。

■なぜ「絵本」なの？

絵本を開くとそこには絵があり、リズムのある言葉がふれ、赤ちゃんに語りかける要素がたくさん詰まっています。絵本は、赤ちゃんと一緒にいる人が、赤ちゃんに優しい言葉で語りかけ、心を通わせるひとときを、ごく自然につくりだすことができるツールだからです。

■なぜ、「絵本を開く楽しい体験と一緒に」手渡すの？

絵本をただ配るのではなく、保護者と一緒に、赤ちゃんのかわいい反応を見ながら、絵本を開く時間の楽しさを体験してもらおうことが、家庭でもそうした時間をもつ一番のきっかけになるからです。またその体験を通じて、「地域みんなで子育てを応援していますよ」という温かなメッセージも伝わると考えています。